

## 藤枝征司先生の逝去を悼む

経済学部教授 生田 保夫  
法学部教授 大塚 祚保

藤枝先生が亡くなった。あまりに早すぎた人生の終焉でした。なぜ、そんなに人生を急いだのか。残念でなりません。

先生の印象を考えてみました。竹を割ったような性格。左よりの正義漢。筋を通す人。声の大きい人。何事にも、はっきりとした意見を持っている人。いろいろ人に尋ねてみますと、こうした印象が共通したものでした。とにかく個性の強い方でした。

平成15年の12月にS先生の通夜に伺ったおり、茅ヶ崎でのことでした。先生は故人の霊に線香をあげると、清めの酒も飲まずに、早く帰ろうと素早く引返されました。東京駅までの車中の様子も変わるところはなく、体調の悪さを感じることはありませんでした。後になって「黄疸」を発症されていたことを知りましたが、そういえば、顔が黄色味がかっていたように思われました。

昨年1月、検査の結果、ただちに入院したのですが、治療は黄疸が治まってからのことで、まもなく退院されました。元気でした。2月に入り、入退院し、下旬には突然、大学に來られました。タクシーで柏駅までいっしょに帰ったのですが、このときも、お元気でした。しかし、実際は、だいぶ無理をされていたようでした。「黄疸も消えてきたので再入院して治してきます」と元気に話されていたのを覚えています。制ガン剤の投与。そこで一挙に体力が衰えた気がします。そして、4月に急逝されました。

1月から2月まで、あれほど元気でしたのに、信じられない思いでした。一体どうされたのか。制ガン剤の所為か。黄疸が出ていたことは、すでにガンがかなり進行していたものか。いずれにしても、あの元気で、大声のエネルギーある方が、アツという間に逝ってしまったことに衝撃を受けました。

先生とは、本学で20数年にわたるご厚誼がありました。その間における数々のエピソード、なかでも先生の専門である政治学の分野におけるご造詣は、学説、論理の域をこえて自らが政治の世界を志していたかの如く、その言説は常に明快、正鵠を得たものでした。その真骨頂は、学内における学長選挙、理事・評議員選挙の時の選挙管理委員長としての采配ぶりでした。問題が起るたびに、先生の示された的確な分析、判断、指示は、その場にご一緒して目を見張るものがありました。それは、まことに他の追隨を許さぬものがありました。そして先生の密かな愉しみは、どうやら選挙結果、票読み

の精度にあったのではないかと思われました。実際、先生の予想は、精度が高く、特に、地域選挙にいたっては驚くべきものでした。細かいデータの収集はもちろんのこと、先生独特の経験と勘で微調整して判断されていたのだと思いますが、たびたび驚かされたものです。各種の選挙のたびに、先生はどんな予想をしたであろうかと懐かしく思い出されます。

もう何年か前の学内選挙でした。先生は、例のように選挙管理委員長をしておられましたが、開票が進むうちに、どうやらご自身が当選する流れになってきました。先生は表情ひとつ変えることなく、開票の指揮を執られました。開票後、学長室に報告に向かう途中、「とうとう理事ですね」と話しかけたら、「こういう結果になったからには、大学のために一生懸命やります」と、緊張した面持ちで話されました。何か期するところがあつたのかもしれませんが。

先生は、新松戸キャンパスの担当理事でした。キャンパスの土地から建物の設計、工事などのすべてに関わっておられ、先生の実行力とアイデアによって推進されたところが多かったと聞きます。亡くなる直前まで、それらのことを心配しておられたとのこと。新松戸のオープンを心待ちして逝ってしまわれたのでした。さぞかし無念でありましたろう。新松戸キャンパスは、先生のエネルギーの体現でした。そして、大きな功績の一つでもありました。

藤枝先生の墓は、牛久大仏の足下にあります。そして牛久大仏の展望台からは、竜ヶ崎キャンパスが見えます。先生は、大仏を通して流通経済大学のゆくえを見守っているように思えます。我が愛した流経大よ頑張れと。

最後に、藤枝先生のご冥福を心よりお祈りし、合掌したいと思います。安らかにお眠り下さい。